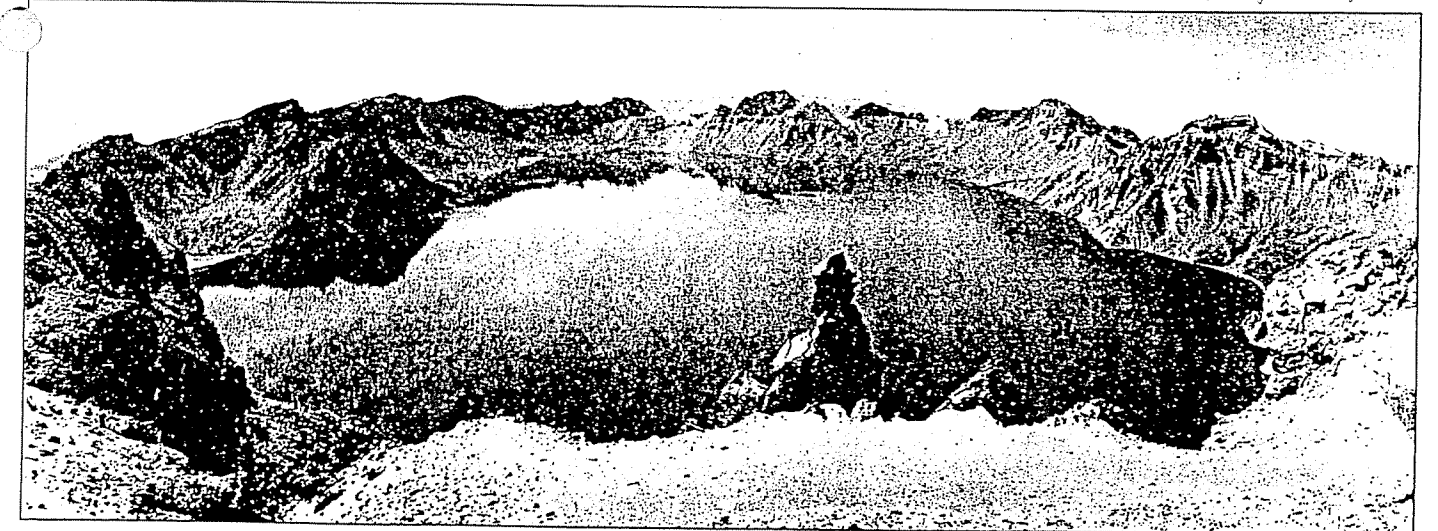


天池人文 천지인문

～我々が考え、我々が実行し、我々が支援し、我々の夢を実現する～

CHEONJI CULTURE



天池倶楽部 発行

国際経済

世界恐慌か それとも 軟着陸か

突然のアジア崩壊が世界を揺るがした97年
危機の連鎖はかろうじて食い止めたが
「強いアメリカ」にも陰りが見えはじめている

ビル・パウエル(本誌欧州経済担当)

そ

の衝撃の大きさは、おそろしくその場にいた者にしかわからないだろう。タイ・バツ暴落後の一九九七年八月、バンコク中心部の高層ビルにある大手米銀のオフィスで会ったアメリカ人の若手マネジャーは、まさに危機の震源にいた。

オフィスの壁には、世界各地の時刻を表示する時計がずらりと並ぶ。東京、ロンドン、ニューヨーク……。だが、このバンカーの頭にあったのは、タイのリゾート地ブーケットだった。修羅場と化したバンコクを逃げ出して、魅惑的なリゾートにひとっ飛びしたい衝動に駆られていたのだらう。

快適なオフィスのすぐ外では、四〇度近い猛暑の中、タイの金融システムが心から溶けて流れ出そうとしていた。

過度のストレスで、この若いバンカーは神経がどうにかなくなってしまったようだ。数年後には、経営が破綻したタイの銀行の名を耳にするだけで机の下に潜り込んでしまうようなストレス障害が現れてもおかしくない。

九〇年代初め、東京にいた彼は、

バブル崩壊の荒波を乗りきった。タイに赴任したときは若く有能で、自信にあふれていた。東南アジアは、金を稼ぎ名を上げるには格好の場所のはずだった。

それが今のようない事態になるとは、「誰一人として」予想していなかった、と彼は言う。そのくらいタイは高成長に沸き、強気一色だった。

だが、なんといってもアジアは経済的奇跡の地。タイの金融混乱も、一時的な調整ではないのか。事実、同じ米銀の同僚で、シンガポールで東南アジア経済の分析を担当しているエコノミストは楽観的な見方だった。今回の金融危機は、東南アジアの一部の国々で成長を減速させるにすぎない、というのだ。

時限爆弾をかかえた日本

これに対してバンカーは、最初言葉に濁した。一彼とは毎日話をしている。確かに頭のいい男だということも認めるが……

そしてしばらく沈黙した後、彼は言った。「外を見てくれ」……窓から見たのは、建設途中、あるいは完成してもテナントが見つ



Hong Kong: Hang Seng Stock Index South Korea: Ke

France: CAC 40 Mervat Index Br

Germany: DAX Dow Jones Industrial A Great Bri

Niwa: Weighted Index India: Sensex Sou

Mexico: Bolsa S

THE YEAR IN REVIEW

からないまま放置されている七棟の高層ビルだ。これだけでも、損失はざっと一億。おかげでタイの銀行がいくつか吹き飛んだ。「こんなことが生きているうちに起こるとは考えもしなかった。これは大惨事だ」

その前の週には、やはり通貨不安に揺れていた香港のホテルのラウンジで、ドイツ銀行東京支店のエコノミスト、ケネス・カーティスに会った。

彼は紙の切れ端に世界の新興工業国一カ国の名前を書き出した。東南アジア諸国に加え、アルゼンチン、チェコ、スロバキア……。これらの国がすべて、タイと同様の通貨危機や銀行倒産に見舞われたらどうなるか。

カーティスが恐れるのは、アメリカで起こった「オレアリーの牛」と同じ連鎖反応だ。ある日、オレアリー家の牛が牛小屋のランプを蹴飛ばして火事を起こした。火は止めどなく燃え広がって、最後はシカゴ全市を焼き尽くす。一八七一年のシカゴ大火だ。

「もしタイが『オレアリーの牛』だとしたら……」と、カーティスは言う。

そして秋には、韓国経済が破綻して、IMF（国際通貨基金）などに総額五七〇億という史上最大の金融支援を仰ぐ緊急事態となった。政府に対する国民の不信は頂点を達し、二月二十八日の大統領選挙では、与党ハンナラ党に絶縁状をたたきつけ、新政治国民会議の金大中を選出した。

さらに、巨額の不良債権という爆弾をかかえた世界第二の経済大国、日本も大きく揺らいでいる。九七年、円はドルに対して一五〇安くなり、日経平均株価も二〇％下落。金融機関の経営破綻も、北海道拓殖銀行や山一証券などの大手にまで広がった。

自民党の緊急金融システム安定化対策本部長を務める宮沢喜一元首相は二月初め、金融不安の拡大を食い止める緊急対策を問われ、特に何もないと答えた。これでは、足首までガソリンにつかりながら火遊びをしている子供のようなのだ。

アメリカは最後の買い手

アメリカへの影響はどうか。二月半ばごろまでは、アメリカ経済は盤石と信じる専門家がまだ多かった。アジア通貨の暴落で、アジアからの輸入価格は下落する。それがアメリカに低インフレと低金利の恩恵をもたらす、という理屈だ。

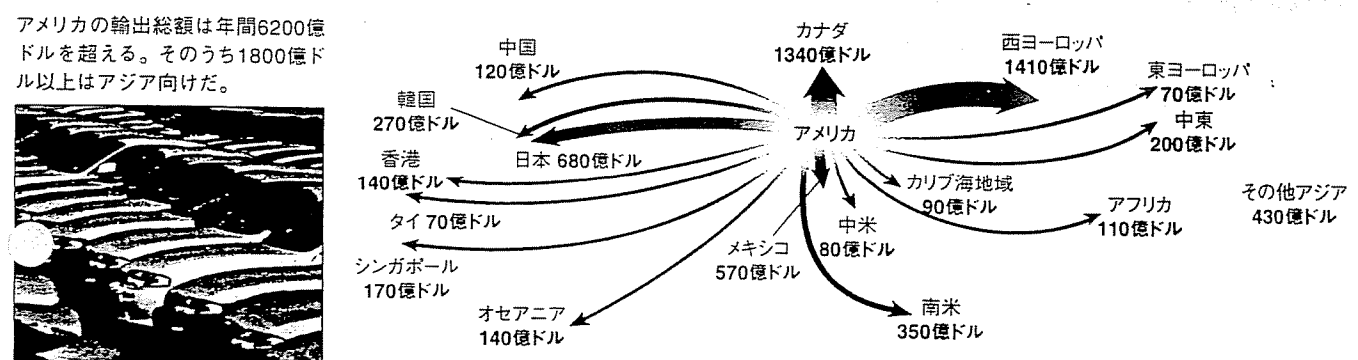
株価もそれを反映して上昇した。一〇月末と二月中旬に二度の急落があったとはいえ、年間を通じてみれば、アジア経済の急激な悪化にもかかわらず、どうにか好調を維持し続けた。

事実アメリカ経済 健全この

アメリカとIMFが頼みの綱？

ドル高はアメリカの輸出にとってマイナス。貿易相手国の経済不振がアメリカの輸出に影響するようになれば、外国の有力市場に対するアメリカの投資も少なくなっていく。こうした悪循環には、IMFの支援策でとりあえず歯止めがかかっているが……。

アメリカと世界経済の関係(アメリカから各地域への輸出高)



アメリカから輸出されるフォード車

外為相場と株式相場の変動率(97年7月4日~12月19日)

今回の経済危機は97年夏、東南アジア諸国の株価暴落と通貨の下落から始まった。

	株式相場 (%)	外為相場 (対米ドル) (%)
韓国	-49.0	-65.9
インドネシア	-48.6	-106.0
タイ	-41.0	-56.0
フィリピン	-32.7	-48.0
香港	-29.8	-0.1
日本	-23.0	-14.0
アメリカ	-1.8	—
ドイツ	3.6	-1.3
イギリス	4.9	1.0
メキシコ	6.5	-2.1

ウォンは対ドルで66%も下落した

資料: 米商務省、BLOOMBERG、IMF、GRAPHIC BY CHRISTOPH BLUMRICH AND KARL GUDE—NEWSWEEK

IMFの経済支援プラン(アジア諸国への融資規模)

IMFはアジア経済の危機を深刻にとらえ、右のような緊急支援策を決定した。

- フィリピン 6億5200万ドルの既存融資の延長と、4億3500万ドルの追加融資を7月に決定。
- タイ 期間2年10カ月、39億ドルの支援融資を8月に決定。金融改革など厳しい条件をつけた。
- インドネシア 世界銀行などの国際機関とともに、180億ドルの融資を行うことを10月に決定。
- 韓国 日米からの融資も含めると、総額は570億ドルで史上最高。それでも足りないとの見方も。

IMF主導の経済改革に抗議する韓国民

天池通信

1997年末忘年会開催

지난 1997年 한해를 보내면서 천지구락부의 년말망년회가 東京.銀座에 있는 한식집 舍廊房에서 열렸습니다. 천지구락부 설립 이래 두번째로 열리는 망년회였습니다. 평소에는 바쁜 생활템포로 평소 서로 만나기 힘든것이 우리들의 사정이였습니다. 이날은 많은 분들이 가족을 동반하여 한자리에 모였습니다. 그 동안 잊고 살았던 우리들의 노래와 춤으로 흥겨운 한때를 보내게 되었습니다. 처음으로 오신 분들을 포함해 약 40여분이 참석해주셨습니다.

제34차天池俱樂部정례모임

온세계가 아세아의 금융위기로 한바탕 흥역을 치렀습니다. 지금 다소 진정된 모양이지만 언제 다시 재발할지 모르는게 사실입니다. 금융위기는 우리가 어렸을때 교과서에서 배우던과 같이 남의 일이 아닙니다. 세계화의 추세에 따라 지구촌은 점점 일체화가 되어가고 있습니다. 동근 지구의 이쪽에서 재채기 한번 해도 반대편에서 금방 아는 그러한 시대가 되었습니다. 이제 우리의 일상생활과도 깊은 관련이 있는 금융 지식에 대해 좀 알아보는것도 필요하지 않은가 생각하여 이번 모임은 기본금융지식강좌를 마련하였습니다. 여러분에게 다소나마 도움이 되기를 바랍니다.

모임일정

時間: 1998년 1월 25일 오후 6:30-9:30

場所: 東京都文京区区役所ビル 五階中小企業振興センター

研修室B室

講義: 宋虎岩

担当: 金万寿

電話: 0422-79-3750



経済破綻に怒った韓国国民は、与党を捨てて野党の金大中を大統領に選んだ

の15%はアメリカ向けだが、アジア諸国の通貨価値の下落で、その比率は今後ますます上昇するだろう。

クリスマスプレゼントに何が欲しいかと尋ねられ、日本のある大企業幹部はこう答えた。「強いアメリカ経済だ!」これは、アジア全体の心情を代表する言葉かも知れない。

ウォール街の犯したミス

ナリオとは、日本の金融システムが破綻して、アメリカを道連れに沈没することだ。その可能性は今も完全には消えていない。

九七年の夏、好景気に浮かれるアメリカは二つの大きなまちがいを犯した。一つは、韓国を含むアジアの危機を甘くみたこと。もう一つは、日本はもはやアジアと一蓮托生の経済構造になっていることに気づかなかったことだ(タイなどは、日本の100%子会社も同然だ)。

だが、これらウォール街のアナリストも、危機は「東南アジア」に限定されていると言いつづけた。そしてマレーシアの小さな東南アジアの小国は、アメリカ経済には何の関係もないと喧伝し続けたのである。

だが実際には、アジア経済の破綻で日本の金融危機が表面化。それによって、日本の産業界の景況感も一気に悪化することになってしまった。希望は、日本政府が十分に重い腰を上げ、本気で危機に対処する構えを見せたことだ。景気後退がもはや誰の日にも否定しえなくなつた二月十七日、橋本首相は予想されていなかった二兆円の所得減税を発表した。

「日本発の世界恐慌の引き金は絶対に引かない」と、橋本は言った。不良債権問題に対する海外投資家

夢のシナリオもあるが

だが、ここにも不安材料がある。二月十七日、大手化学・情報関連メーカーの3Mは、業績予想を下方修正した。アジアの経済停滞に大きく足を引っ張られたのだ。ウォール街には、今さらのように衝撃が走った。

同じような話は、これから山ほど出てくるだろう。ボーイングやキャタピラーのようなアメリカの大企業は、アジアで大幅な売り上げ増を見込んでいた半年前とはうって変わって、極端なくらい用心深くなっている。アジアに対する輸出を減らした分は、どこかで取り返さなければアメリカ経済の成長もおぼつかない。だが、今のところアジアに代わる有力な市場はまだ現れていない。

九七年のアジア経済危機のもう一つの産物として、九八年には、アジア各国がアメリカに猛烈な輸出攻勢をかけることになる。GM(ゼネラル・モーターズ)は、トヨタ自動車や本田技研工業と一